

しずおかの「旬の食」—8月—



(富士梨)
贈答用として人気です。

富士の
富士梨



水はけの良い畑で、良質の梨づくり

時代を超えた富士梨の栽培

富士梨は、明治元年ごろに富士郡加島村(現在の富士市水戸島地区)を中心に栽培が始まったと伝えられています。

当地は、富士川の沖積土による砂質土壌で排水が良く、大変甘い果実が収穫できたため、大正末期から昭和初期にかけて栽培面積300haにも及ぶ大産地となりました。

その後、第2次大戦中の食糧増産政策による強制伐採のため、産地は壊滅的な状況となりましたが、戦後、再び増植が行われ、培われた栽培技術を基にして現在では約40haの園地で、800t余りが生産されています。



富士梨の入手方法は？

富士梨は、農家が個別に直売・宅配等で販売を行います。出荷の始まる8月上旬は贈答用として買い求める方が多く、富士梨が欲しい方は、直接農家に問い合わせる必要があります。

また、市と農協は協力して富士梨の生産振興を図っており、JA富士市営農課でも梨の注文を受け付けています。

(電話：0545-61-8124 FAX：0545-64-4755)

毎年8月中下旬には富士梨品評会(富士市農業振興推進協議会)が開催され、一般入場者に向けて、出品された最優秀の梨の即売会が開催されます。

幸水と豊水が富士梨の看板

現在、富士梨の代表的な品種は、甘味と歯ごたえ、瑞々しさが際立つ幸水(栽培面積約6割)と豊水(同、約4割)が主体で、少ないながら新水や喜水なども栽培されています。

また、独特の味と歯ごたえで年配の方々から支持されている長十郎も、花粉の採取用としての趣は強いものの栽培が続いています。

主な出荷時期は、ハウスものを除いて8月上旬(お盆前)から9月上旬で、前半が幸水、後半に豊水が出荷されます。

梨の花の授粉作業



美味しい梨を作るためには、この授粉作業が欠かせません。

桜の花が咲く頃、梨も白く可憐な花を咲かせます。

梨は自花受粉せず、蜂による受粉も安定しないため人工授粉を行う必要があります。

また、異なる品種で人工授粉を行うと、より美味しい梨を生産することができます。しかし、この作業は大変重労働です。